松本　剛（まつもと　つよし）

専門）臨床心理学　学校教育相談　人間性心理学　学生相談

私のテーマは、

「思春期・青年期のカウンセリング、ベーシック・エンカウンター・グループ、学校教育相談、学校−保護者間関係 などなど 臨床心理学をベースにした学校の諸課題へのとりくみ」

で　す。

私は高等学校の理科教師として 17 年勤めました。仕事は決していつもうまくいくことばかりではありませんでしたが、カウンセリングを学ぶことによって、私は自分自身にさまざまな気づきを得ることができ、教師としての幅を広げられたと思っています。その後、大学に移って人の話を聴き一緒に考えることを専門とするようになりました。(「物理」から「心理」への転換！)

カウンセラーとしてはロジャーズで有名な人間性心理学という心理学の一分野の立場に立っています。人間を「自ら成長する存在」だと考える心理療法です。その人のことはその人から教えてもらわないとわからない。基本的には、自分の答えは自分で出すことができるのが人間だという考え方です。私も、人にどのようにうまく「教えるか」ということにはあまり関心が強いわけではなく、それぞれの人が自分でいろいろなことに「気づいていく」過程にどう関わるか、そのためには自分はどういう存在であるのがいいのかというようなことをよく考えています。(「教育大」にいるにもかかわらず・・・。但し、「教える」ということに関心がある人に悪い気持ちを持っているわけではありません。)

これまでに、青年期臨床を中心に、教育委員会のカウンセラー、キャンパスカウンセラーとして、小・中・高等学校の児童・生徒、保護者との面接や学校の先生の相談に携わってきました。今は、兵庫県のこころの教育総合センターでも非常勤で勤務していますから、学校のいじめや不登校など児童生徒への心の教育のありようについても考えることが多いです。学校−保護者間関係については、「いちゃもん研究会」というのがあってその一員です (そろそろ解散！)。学校と保護者が、なんとかよい関係になっていかないか共同で模索しています。

小集団で進めるエンカウンター・グループも専門のひとつで、その場におけるファシリテーターのありかたについて相互に学ぶ「ファシリテーター研修」についても長い間、実践・研究しています。その一環として、教員がバーンアウトしてしまわないように、集団で相互にケアしあう場として、神戸キャンパスで「学校の人間関係研究会」を月に一度（長期休みを除く第二水曜の夜）開催しています。そこでは「話し合い」ではなく、「聴き合い」になるといいなといつも思っています。

私個人としては、結構一人が好きで、冷めたところがあるような人間なのですが、時に少し熱くもなり、しかも専門は「人間関係」に関わることだという複雑さが面白いと一人思ったりしています。